

皆藤将 [皆藤将 賞]

コレクター・ドネーション

太田遼・中島あかね

角谷幹夫 [角谷幹夫 賞]

該当なし

鐘ヶ江織代 [鐘ヶ江織代 賞]

コレクター・プライズ

三好愛 (メイン)

日常で目にする「見かけを私たちはどのように受け止め昇華しもしくは拒否するのか。制御され、隠され、何かを奪われたかのように見えるものにこそ、自由があり、動き回ることができるのかも。しかしその自由は時として暴力的な力を帯びる可能性も秘めている。そのような「自由」の意味を問うポップでグレーなものを、「匿名希望」という名の作品から受け取った。

株式会社アフタヌーンソサエティ

[アフタヌーンソサエティ 賞]

コレクター・プライズ

鈴江栄治 (メイン)・佐々木浩一 (メイン)

キース・ウィルト [ファウンテン 賞]

該当なし

菊池麻衣子 [パトロンプロジェクト 菊池麻衣子 賞]

コレクター・プライズ

赤井正人 (メイン)

「カラフルな作品を選びがちな私は、アートフェア―巡目は赤井さんの黒々とした展示エリアを―していました。再度ゆっくり目に会場を巡っていた時に赤井さんの獅子を描いた作品が目に入り、「結構かわいい顔をしているな」と思いました。焦がして黒くした立体作品もあって面白いなと思っていると赤井さん自身が登場。

「奈良で生まれ育ち、現在も奈良で活動しています。家族が修験僧の宿泊所を運営しているので、山伏なども泊まりにきます。」という話に惹かれました。展示してある作品や立体について聞いていくと、赤井さん自身も舞う事ができる獅子舞の絵、山中で見た山菜の絵、修験僧が燃やした後にのこる焦げた物から発想した立体など、経験が自然に作品に昇華している事も魅力的。真摯で柔らかな物腰も好感度大！空海ゆかりのエピソードから出てきた独鈷の立体と獅子の3部作の中から未来を表す作品を購入することに。現代的な作品ながら伝統的なテンプラ技法を活用しているのも良いなと思いました。今後の展開が楽しみです。奈良のアトリエも訪ねてみたいです。」

北野和浩 [YKK AP Challenge Artist 賞]

該当なし

喜多克尚

該当なし

木下栄三 [エクー賞]

該当なし

木村博ユキ

コレクター・プライズ

キム・ダイ・ナム (体育館/桂園芸術大学 写真工房 李)

好きな作品と出会うタイミングというのは、自分にとって一目惚れではなく、いつも二度目に惚れる時に起こるものだと思う。その作品はみな、作者が表現したい対象となるものと画面の表層との間に、空気と温度、時間と物語りが常に「そこ」に有り続け、観者が想いを馳せることの出来る作品でなければならない。作家が作品を仕立て上げるために重きをおく点として、時にその意を脱し、ゼロから創造する事も大事であろう。但し、表現の一方通行であるというのは時に賞賛され、また卑下されうるものである。善し悪しの話ではなく、観者がいつかの想いを馳せるというのは「その作品を観た時に感覚が澄み渡り、その後時間をおいて呼び覚まされる」に尽きないと思う。キム・ダイ・ナム一連の写真作品は、間違いなくその作品であるだろう。

金城敦彦 [金城敦彦 賞]

コレクター・ドネーション

平良優季・経塚真代・三好愛

プライズセレクターという形でのフェア参加機会をいただき感謝する。ささやかなドネーションを以下の3氏にお送りさせていただいた。
○モチーフの豊かな彩と躍動感が心を解す平良優季氏の作品。溢れ出る生命の息吹と次代へ継承を想う。
○独特な形状と色味、そしてタイトルも三好愛氏作品の構成要素。平面に展開する(暗示する)個と個の関係性が心をくすぐる。
○一人の心情の発露に椅子一脚が呼応する経塚真代氏の作品。独りで過ごす夫々の姿勢が我が子のように愛おしい。
3氏をはじめ多くの作家、作品と出会えた本フェアの成長を願ってやまない。

久木元拓

コレクター・ドネーション

渡部剛

久保金司 [神田っ子賞]

該当なし

月刊アートコレクターズ

コレクター・ドネーション

山本優美

衣類をモチーフにやきもので制作した作品。クオリティが非常に高く、また壁に掛けられるようになっており優れている。可塑性の高い粘度は、焼成という過程を通して固く変化するという性質を使って、衣類が持っている記憶をとどめようとする。そうしたコンセプトも面白く感じる。

月刊ギャラリー [月刊ギャラリー 賞]

該当なし

小泉亜里

コレクター・プライズ

Atsuko Nakamura (メイン)

創られた作品でありながら、自然に任せているようなどこか居心地の良さを感じつつ、「人間の営みと自然」をテーマとしているという熱い気持ちが直接私の心に響き、暫く立ち尽くした。

近藤俊太郎 [アバンギャルド茶会 賞]

コレクター・プライズ

SIDE CORE (メイン)

今回は「コンセプト」を買いました。目にした瞬間には、何も感じなかったのに、キュレーションした SIDE CORE のメンバーと作品について話しをしていたら、「なるほど」と思うことがあり、一気に興味を惹かれました。実際には「EVERYDAY HOLIDAY SQUAD」の映像作品なのですが、こういう「コンセプトアート」や「インスタレーション」がアートファンだけではなく、一般的に楽しんでもらえる環境が広がったら嬉しいなと思っています！（演出ですね！）